

I 教育理念

獨協医科大学の建学の理念に則り、患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護師を育成する。

II 教育目的

豊かな人間性を備えた、看護実践力のある看護師を育成する。

III ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

1. 専門職業人としての倫理観に基づく看護を実践できる。
2. 看護の対象を総合的に理解し、科学的な知識・技術に基づいた看護を実践できる。
3. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護の役割と責任をもって協働できる。
4. 看護の発展や質の向上に貢献できるよう、主体的学修能力を身につける。
5. 国際的視野を持ち看護を実践できる。

IV カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成および実施に関する方針）

1. 本カリキュラムはナイチンゲールの看護論を基盤に、人間・環境・健康・看護の4つの概念で構成する。
2. 看護の実践的・専門的職業教育を通し、人間形成を目指して講義や演習においても実践現場を想起し、生命に関わる職業である看護師の責務を考えられるようにする。
3. 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働をふまえ、高度急性期の医療から地域での療養生活において、対象やその場の状況を適切に判断し質の高い看護ができる看護師を育成するよう科目を構成する。
4. 共同学習により、多様な価値観にふれながら課題を探究し、変化する社会や人々のニーズをふまえ保健・医療・福祉チームにおける連携と協働、倫理観を身につける。

5. 看護に必要なコンピテンシーを育成するために、プロジェクト学習方法を取り入れ、課題発見し情報リサーチをもとに論理的に思考を展開させ、課題解決していく力と主体的な学習する姿勢を身につける。
6. 実習においては、国際的視野を持ち多様な対象との関係形成を基盤として看護実践とリフレクションによる体験の意味づけにより個別の状況に応じた看護を学ぶ。
7. 学修成果の評価は、到達目標と成果を示す試験・レポート・グループワークや授業への参加状況、実習評価等を含め、多様な方法で総合的に行う。加えて、学修の取り組みについて学生自身が自己評価を行い、課題解決に向けて取り組む。

V アドミッション・ポリシー (入学者受け入れに関する方針)

1. 看護師を目指す意志を明確に持っている人
2. 看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する人
3. 人間・健康・環境や人々の生活に関心がある人
4. 他者を尊重し人との関わりができる人
5. 自ら考え意見を表現できる人
6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲のある人

VI アセスメント・ポリシー (学修成果評価方針)

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに基づいて、組織レベル・教育課程レベル・授業科目レベルの段階で学修成果を把握し評価・検証する。

1. 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校（組織）レベル
アドミッション・ポリシーに基づいて入学した学生が、卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマ・ポリシー）を満たし、社会に貢献する人材に成長しているか評価し、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの見直し及び教育の質保証に役立てる。
2. 教育課程レベル
ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育課程で編成された学修成果を上げているか、また、卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマ・ポ

リシー) を満たす人材にどれだけ近づいているか評価し、カリキュラム改善・学修支援に役立てる。

3. 授業科目レベル

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく学修内容で構成され、学修成果を上げているか科目ごとに評価し、授業改善・学修支援に役立てる。

VII 学年目標

ディプロマ・ポリシー

教育理念

医科大学の建学の精神に則り、患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護師を育成する。

教育目的

豊かな人間性を備えた、看護実践能力のある看護師を育成する。

1. 専門職業人としての倫理観に基づく看護を実践できる。

- ① 生命と人間の尊厳について考えることができる。
- ② 他者を尊重し、自己を理解したうえで、対象者と関わり、人間関係を深めることができる。
- ③ 社会的規範・職業規範を意識し行動できる。

2. 看護の対象を総合的に理解し、科学的な知識・技術に基づいた看護を実践できる。

- ① 看護の対象を身体的・精神的・社会的・文化的に統合された存在として理解できる。
- ② 五感を使って観察し、論理的思考・専門的知識と技術をもって健康上の課題を解決する看護実践ができる。
- ③ あらゆる成長発達段階・健康レベル・生活の場に応じて安全・安楽・自立・尊厳を考慮し看護実践できる。
- ④ 実践をリフレクションし、より良い看護を探求し実践につなげる。

3. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護の役割と責任をもって協働できる。

- ① 地域包括ケアシステムにおける看護の役割が理解できる。
- ② 様々な場における保健・医療・福祉の連携について理解する。
- ③ 対象を取り巻く保健・医療・福祉チーム間の協働の必要性を理解しスタッフと共に行動できる。

4. 看護の発展や質の向上に貢献できるよう主体的学修能力を身につける。

- ① 看護実践における自己課題の解決に向けて努力する。
- ② 看護の質向上に努める必要性を理解し、新たな技術やエビデンスに基づいた知見を看護実践に活用する。
- ③ 専門職としての能力の維持・向上に努め看護を探求する。

5. 国際的視野を持ち看護を実践できる。

- ① 諸外国の宗教、文化、生活背景を知り、多様な価値観を尊重する。
- ② 国籍や人種、民族、宗教、信条をふまえて看護実践できる。

1 学年	2 学年	3 学年
<p>①生命と人々を尊ぶことができる。</p> <p>②あらゆることに関心を持つ。</p> <p>③相手の話を聞くことができ、自分の意見を表現することができる。</p> <p>④社会的規範を理解できる。</p> <p>⑤社会生活におけるマナーを意識して行動できる。</p> <p>⑥看護師を目指す学生として看護に関心を持ち律することができる。</p>	<p>①多様な価値観を持つ他者を尊重し、また自己の課題を認識し、対人関係を形成するように行動する。</p> <p>②社会的規範を理解して行動できる。</p> <p>③看護師の倫理綱領を説明できる。</p> <p>④相手の状況を考えた報告・連絡・相談・確認ができる。</p>	<p>①多様な価値観を受けとめ対象を尊重し、関係形成ができるよう行動する。</p> <p>②対象への看護を通して、専門職者としての責務を自覚し倫理的な行動ができる。</p>
<p>①対象を身体的・精神的・社会的存在として理解する。</p> <p>②看護に必要な基礎的知識により、科学的根拠に基づいて看護を理解できる。</p> <p>③原理・原則に基づいた看護技術ができる。</p> <p>④実践を振り返り、修正すべきことに気づく。</p>	<p>①対象を身体的・精神的・社会的・文化的側面から生活者として理解する。</p> <p>②看護に必要な知識を用いて科学的・論理的に現象を理解し、成長発達段階・健康レベル・生活の場に応じた看護が理解できる。</p> <p>③原理・原則に基づき安全・安楽・自立・尊厳を考慮した看護技術が実践できる。</p> <p>④地域で生活している対象の看護援助を考えられる。</p> <p>⑤看護実践をリフレクションし、より良い看護を探究する。</p>	<p>①対象を身体的・精神的・社会的・文化的に統合された生活者として理解する。</p> <p>②対象とその場の状況を判断しエビデンスに基づいて看護実践できる。</p> <p>③あらゆる場や状況においても、安全・安楽・自立・尊厳を考慮し看護実践できる。</p> <p>④地域で生活している対象の生命・生活の質を考慮した支援を考えられる。</p> <p>⑤看護実践をリフレクションし、より良い看護を探究し実践につなげる。</p>
<p>①保健・医療・福祉の仕組みが理解できる。</p> <p>②対象を取り巻く多職種の役割を知る。</p>	<p>①地域包括ケアシステムにおける看護の役割が理解できる。</p> <p>②保健医療福祉チームにおける自己の立場を理解して報告・連絡・相談・確認ができる。</p> <p>③様々な場における保健・医療・福祉の役割を理解する。</p>	<p>①対象を中心とした、多職種連携と調整の必要性を認識し、スタッフと共に行動できる。</p> <p>②様々な場や状況における保健・医療・福祉の連携・協働を説明できる。</p>
<p>①生活リズムを作り、時間管理をして学習できる。</p> <p>②成人学習者として自己分析し、克服すべき課題を明確にする。</p> <p>③理想の看護師像を明確にし、自己の目標を明確にする。</p>	<p>①看護実践における自己課題解決に向けて、自ら学習に臨む。</p> <p>②看護の質向上に努める必要性を理解し、新たな技術やエビデンスに基づいた知見を学習することができる。</p> <p>③学習や実習での体験を通して、「看護とは何か」を考えることができる。</p>	<p>①看護実践における自己課題解決に向けて、向上心を持って主体的に学習に取り組む。</p> <p>②看護の質向上を目指し、新たな技術やエビデンスに基づいた知見を看護実践に活用する。</p> <p>③学習や実習での体験を通して、「看護とは何か」を語るすることができる。</p>
<p>①関わる人々の多様性を大切にできる。</p>	<p>①対象との関わりを通して、人々の多様性を理解し看護実践ができる。</p> <p>②諸外国における保健・医療・福祉の動向を知る。</p>	<p>①国籍や人種・民族・宗教・信条等の個々の多様性を認識し、対象特性を踏まえた看護実践ができる。</p> <p>②諸外国における保健・医療・福祉の現状をふまえ、看護を展望する。</p>

VIII 主要概念の考え方

人間

1. 人間は、生物体、生活体の統一体である。
2. 人間は、恒常性・自然治癒力を持つ存在である。
3. 人間は、受胎から死に至るまで成長・発達し続ける存在である。
4. 人間は、基本的欲求を持つ自立した存在である。
5. 人間は、尊厳及び権利を有する唯一無二の存在である。
6. 人間は、自ら学ぶ力を持つ存在である。

環境

1. 環境には外部環境、内部環境がある。
2. 外部環境である社会は、複数の人間が関係を持つところに成り立つ。
3. 外部環境である社会は、人々の関心やニーズの変化に応じて変容する

健康

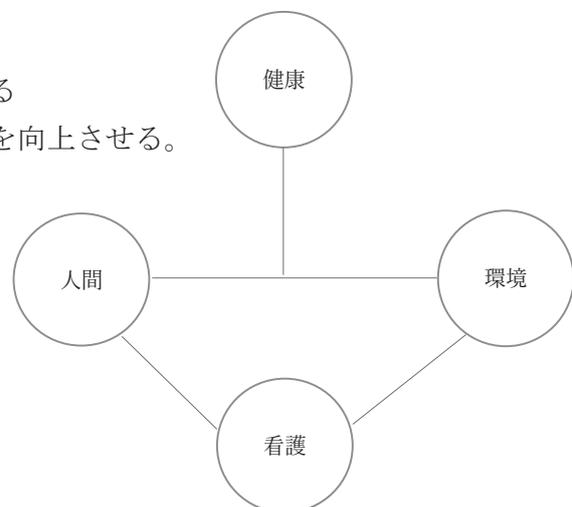
1. 健康は、生活過程において持てる力を活用し、自己実現を目指す状態である
2. 健康は、最良な状態から死に至るまで連続的かつ流動的に変化する
3. 健康は、人間の基本的権利の1つである

看護

1. 看護は、対象の生命力の消耗を最小にするように、生活過程を整えることである。
2. 看護は、あらゆる健康レベルや発達段階にある個人・家族・集団・地域社会を対象とする。
3. 看護は、対象の持てる力を活用しその人らしく生を全うできるよう支援することである。

<概念間の関係性>

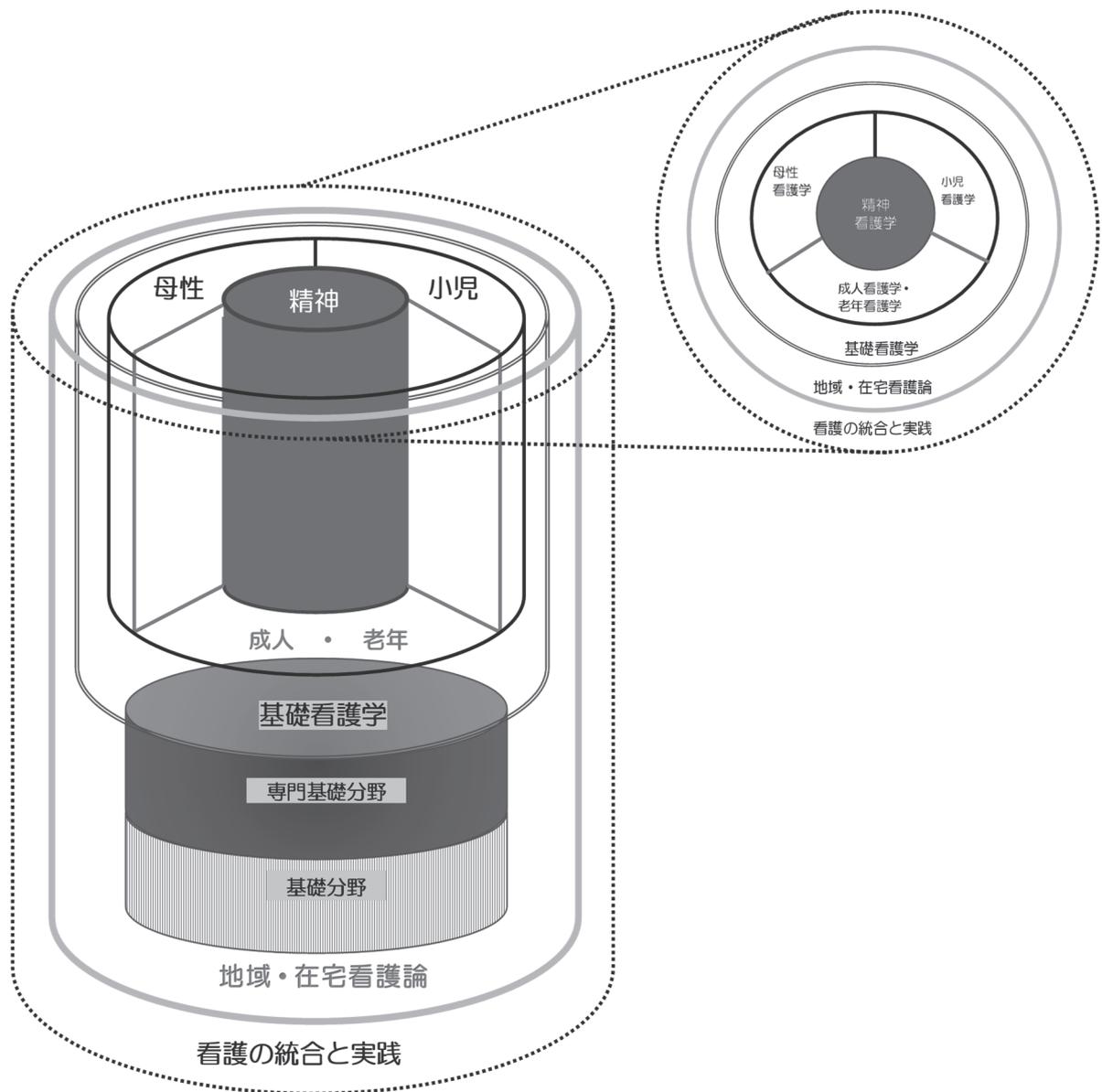
- ・人間と環境は互いに影響を及ぼす
- ・健康は人間と環境の相互作用により変化する
- ・看護は、人間と環境に働きかけ健康レベルを向上させる。



Ⅸ 教科構造図

基礎分野で生命や人間の理解と人間関係の形成を学び、専門基礎分野で人間の構造と機能や疾病の成り立ち、人間の健康や回復の促進について学習する。それらを土台にして専門分野で看護の基本と対象の状況に応じた看護を学ぶ。精神看護学の位置づけは、専門分野の中核であり、かつ成人・老年・母性・小児に並ぶ看護における専門領域とする。また、地域・在宅看護論は専門領域に位置付け、対象の地域での暮らしに焦点を当て多様な人々の健康支援について学ぶ。

これらの基礎分野・専門基礎分野・専門分野を包括する看護の統合と実践の科目で構成し看護実践能力の基礎を培う。



X カリキュラムの構成

		基礎分野	専門基礎分野	専門分野	臨地実習		
ディプロマ・ポリシー		1年次		2年次			
D1. 専門職業人として倫理観に基づく看護を実践できる。	心理学	看護を知る実習 看護実践力の基礎実習	看護への扉	看護物理学 在宅療養する生活者の支援 I	医療倫理 看護と法律		
	看護倫理		栄養学 在宅療養する生活者の支援 II				
看護の道しるべ	症状別看護 (見て護るちから)		セルフマネジメントに向けての看護				
D2. 看護の対象を総合的に理解し、科学的な知識・技術に基づいた看護を実践できる	人間発達学		看護アセスメント			障害適応とセルフケア再獲得に向けての看護	
	看護のための形態機能学 I~XI		周手術期看護			緩和ケア・終末期看護	
	疾病の成り立ち		クリティカルケア看護			高齢者の生活支援	
	微生物学		老いと暮らし			サクセスフルエイジングを支える看護	
	生化学		疾患のある高齢者の看護			小児によくみられる疾患とその影響	
	薬理学		子どもの成長発達と養育			健康障害をもつ小児と家族の看護	
	看護の基本技術		リプロダクティブヘルス			女性のライフステージ別看護	
	生活を整える援助		妊娠・分娩期の看護	こころの病を持つ人の看護			
	対象把握の技術 (看るちから I)		産褥・新生児の看護	こころの病を持つ人を地域で支える看護			
	看護野プロセス (看るちから II)						
検査・治療時の看護							
安楽と癒しのケア							
成人期にある人の理解							
精神看護への招待							
D3. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護の役割と責任をもって協働できる。	人間関係論		彩の国さいたま学		地域の人とのふれあい実習 健康な子どもの養育実習 健康障害のある成人・老年看護学実習	看護の統合実習 健康障害のある小児看護実習 地域での生活支援実習 リプロダクティブヘルス実習 急性期看護実習 慢性期看護実習 こころの健康と生活支援実習	
	健康維持と運動		公衆衛生学				
	社会保障論		リハビリテーション論				
	地域の暮らし	家族看護学					
地域の暮らしを支える仕組み	地域で暮らす看護の対象と活動の場						
D4. 看護の発展や質の向上に貢献できるよう主体的学修能力を身につけることができる。	看護情報学	看護教育学		看護実践マネジメント論 看護における研究			看護における研究
	論理学	データ収集と統計解析					
	ボランティア論						
D5. 国際的視野を持ち看護を実践できる。	プロジェクト学習			地域・在宅看護の未来			地域・在宅看護の未来
	社会学	看護英会話	グローバル看護				

別表 (第12条関係)

学科課程

	科目	単位数	時間数			科目	単位数	時間数			
			1年次	2年次	3年次			1年次	2年次	3年次	
基礎分野	科学的思考の基盤	看護情報学	1	15		地域・在宅看護論	地域の暮らし	1	30		
		データ収集と統計解析	1		15		地域の暮らしを支える仕組み	1	30		
		論理学	1	15			地域で暮らす看護の対象と活動の場	1		15	
		看護物理学	1		15		在宅療養する生活者の支援Ⅰ	1		30	
		看護教育学	1		15		在宅療養する生活者の支援Ⅱ	1		30	
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	30		地域・在宅看護の未来	1			15	
		心理学	1	15		成人看護学	成人期にある人の理解	1	15		
		医療倫理	1		15		クリティカルケア看護	1		15	
		人間関係論	1	30			周手術期看護	1		30	
		看護英会話	1		15		セルフマネジメントに向けての看護	1		30	
		人間発達学	1	15			障害適応とセルフケア再獲得に向けての看護	1		15	
		彩の国さいたま学	1		15		緩和ケア・終末期看護	1		30	
		プロジェクト学習	1	30			老年看護学	老いと暮らし	1		15
	ボランティア論	1	15		高齢者の生活支援			1		30	
基礎分野 小計	14	165	75	15	疾病のある高齢者の看護	1			30		
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進	看護のための形態機能学Ⅰ	1	30		専門分野	小児看護学	サクセスフルエイジングを支える看護	1		15
		看護のための形態機能学Ⅱ	1	30				子どもの成長発達と養育	2		45
		看護のための形態機能学Ⅲ	1	30				小児によくみられる疾患とその影響	1		30
		看護のための形態機能学Ⅳ	1	30			健康障害をもつ小児と家族の看護	1		30	
		看護のための形態機能学Ⅴ	1	30			母性看護学	リプロダクティブヘルス	1		15
		看護のための形態機能学Ⅵ	1	15				妊娠・分娩期の看護	1		30
		看護のための形態機能学Ⅶ	1	15				産褥・新生児の看護	1		30
		看護のための形態機能学Ⅷ	1	30				女性のライフステージ別看護	1		15
		看護のための形態機能学Ⅸ	1	15			精神看護学	精神看護への招待	1	30	
		看護のための形態機能学Ⅹ	1	30				こころの病を持つ人の看護	1		30
		看護のための形態機能学Ⅺ	1	15				こころの病を持つ人を地域で支える看護	2		30
	生化学	1	15		看護の統合と実践	看護管理	1		15		
	微生物学	1	15			グローバル看護	1		30		
	疾病の成り立ち	1	30			看護実践マネジメント論	1		30		
	薬理学	1	30			看護における研究	1		30		
	栄養学	1		30	領域横断	看護アセスメント	2		60		
	健康支援と社会保障制度	リハビリテーション論	1		15	専門分野 小計	45	375	660	90	
		公衆衛生学	1		15	基礎看護学	看護を知る実習	1	45		
		社会保障論	1	15			看護実践力の基礎実習	2	90		
		看護と法律	1		15	地域・在宅看護論	地域のひととのふれあい実習	2		90	
		家族看護学	1		15		地域での生活支援実習	2		90	
		健康維持と運動	1	15		成人看護学 老年看護学	健康障害のある成人・老年看護実習	2		90	
専門基礎分野 小計	22	390	75	15	急性期看護実習		3		135		
					慢性期看護実習		3		135		
専門分野	基礎看護学	看護への扉	1	30		小児看護学	健康な子どもの養育実習	1		45	
		看護の道しるべ	1	15			健康障害のある小児看護実習	1		45	
		看護倫理	1	15		母性看護学	リプロダクティブヘルス実習	2		90	
		看護の基本技術	1	30			精神看護学	こころの健康と生活支援実習	2		90
		生活を整える援助	2	60		看護の統合と実践		看護の統合実習	3		135
		対象把握の技術（看るちからⅠ）	1	30			臨地実習 小計	24	135	225	720
		看護のプロセス（看るちからⅡ）	1	30		卒業に必要な総授業時間数					
		検査・治療時の看護	1	30		105	1,065	1,035	840		
		症状別看護（見て護るちから）	1		30						
		安楽と癒しのケア	1	30							

新カリキュラム進捗表

学期	前 期																		後 期																																	
月	4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3																		
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
1 学 年	看護情報学																		社会学																																	
	論理学																		生化学																																	
	心理学																		疾病の成り立ち																																	
	人間発達学																		看護のための形態機能学VI																																	
	人間関係論																		看護のための形態機能学VII																																	
	*ボランティア論																		看護のための形態機能学VIII																																	
	看護のための形態機能学I																		看護のための形態機能学IX																																	
	看護のための形態機能学II																		看護のための形態機能学X																																	
	看護のための形態機能学III																		看護のための形態機能学XI																																	
	看護のための形態機能学IV																		薬理学																																	
	看護のための形態機能学V																		社会保障論																																	
	微生物学																		プロジェクト学習																																	
	健康維持と運動																		看護の道しるべ																																	
	看護への扉																		対象把握の技術 (看るちからI)																																	
	看護の基本技術																		看護のプロセス (看るちからII)																																	
	*看護倫理																		検査・治療時の看護																																	
	*生活を整える援助																		安楽と癒しのケア																																	
	地域の暮らし																		地域の暮らしを支える仕組み																																	
																			成人期にある人の理解																																	
																		精神看護への招待																																		
2 学 年	看護教育学																		データ収集と統計解析																																	
	彩の国さいたま学																		看護物理学																																	
	栄養学																		看護英会話																																	
	リハビリテーション論																		家族看護学																																	
	公衆衛生学																		在宅療養する生活者の支援II																																	
	症状別看護 (看て護るちから)																		クリティカルケア看護																																	
	地域で暮らす看護の対象と活動の場																		障害適応とセルフケア再獲得に向けての看護																																	
	在宅療養する生活者の支援I																		緩和ケア・終末期看護																																	
	周手術期看護																		疾病のある高齢者の看護																																	
	セルフマネジメントに向けての看護																		サクセスフルエイジングを支える看護																																	
	老いと暮らし																		小児によくみられる疾患とその影響																																	
	高齢者の生活支援																		健康障害をもつ小児と家族の看護																																	
	子どもの成長発達と養育																		産褥・新生児の看護																																	
	リプロダクティブヘルス																		女性のライフステージ別看護																																	
	妊娠・分娩期の看護																		こころの病を持つ人を地域で支える看護																																	
	こころの病を持つ人の看護																		グローバル看護																																	
	*看護アセスメント																																																			
	3 学 年	看護と法律																		地域・在宅看護の未来																																
		医療倫理																																																		
看護管理																																																				
看護実践マネジメント論																																																				
看護における研究																																																				
各看護学実習																		各看護学実習・統合実習																																		

看護を知る実習

看護実践力の基礎実習

地域の人のふれあい実習・健康な子どもの養育実習

夏季休暇

健康障害のある成人・老年看護実習

冬季休暇

春季休暇